

SEKONIC
セコン

model L-458

取扱説明書



お買いあげをいただき、
まことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みください。
セコニック・デジタルラッシュ (L-458) の
性能を十分にご活用ください。

株式会社
中

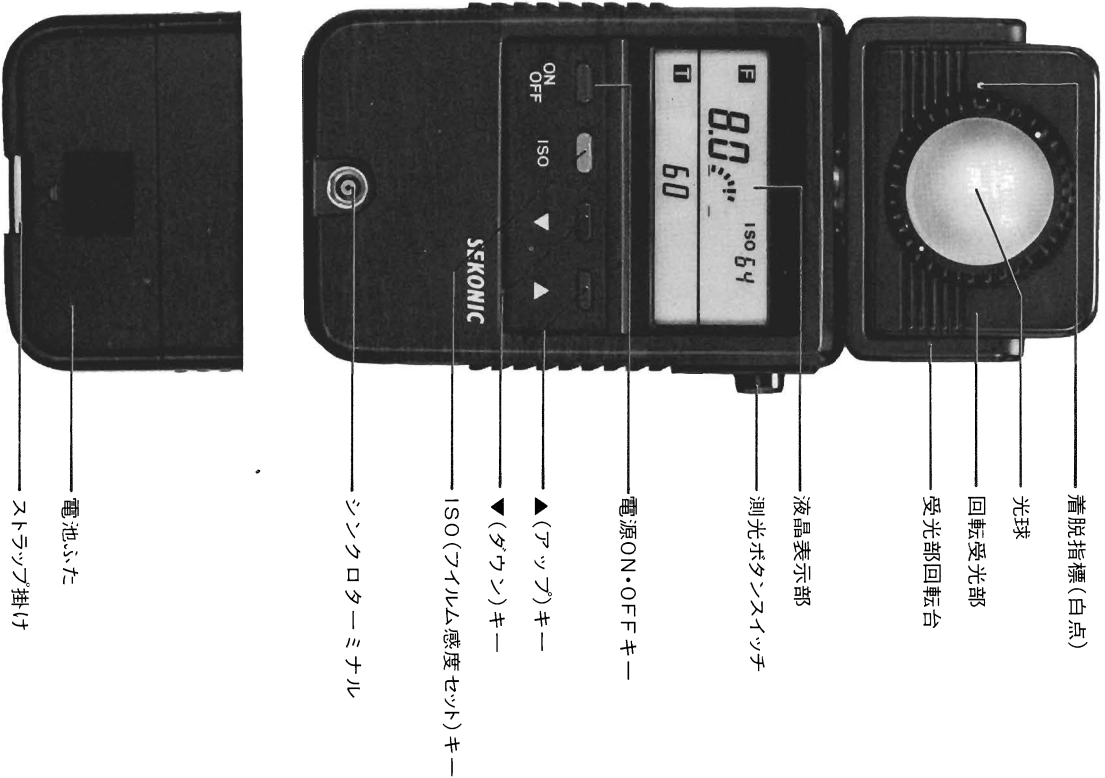
セコニック

東京営業部 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル 03 (269) 7243
大阪営業所 〒541 大阪市東区本町2-25 本町ビジネスビル 06 (263) 1571
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル 052(251) 6201
東京-EXセンター 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新幹ビル 03 (269) 7241
本社 〒177 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 03 (978) 2330

目次

名部の名称	2
液晶表示部	2
付属品について	3
1. 光 球	4
2. 白色平板	4
3. 光角度板	5
4. シンクロード	5
測定の準備	
1. 電池を入れます	6
2. 電圧をチェツクします	7
3. 1SO感度の切換え	7
4. タイムの切換え	8
露出の測定	9
コントラストの測定	11
測定範囲	12
取扱以上の注意	13
フタサーベイスについて	14
仕 様	15

各部の名称



着脱指標(白点)

光球

回転受光部

受光部回転台

液晶表示部

測光ボタンスイッチ

電源ON・OFFキー

ON
OFF

ISO

▲(アップ)キー

▼(ダウン)キー

ISO(ファインム感度セツト)キー

SEKONIC

シンクロータミナル

電池ふた

ストラップ掛け

仕様

測定方式 ●入射光式、反射光式兼用

●フレンジュ光および定常光用デジタル露出計

測定範囲 ●フレンジュ光=F1.0~F90+0.9AV

(ISO 100) ●定常光=EY4~EV21.9

くり返し精度 ●±0.1EV以内

受光部 ●入射光式……光球、白色平板

●反射光式……光角度板(受光角55°)

●受光素子……シリコン受光ダイオード*

ファルターにより分光特性補正

校正常数 ●C=340 K=12.5

目盛表示(各数値の表示)

●ISO(ASA) ……3~8000 (1/8SVステップ)

●T(タイム) ……1/60~1/500秒(TTVステップ)

●F(絞り) ……1.0~90+0.9AV (1/6AVステップ)

小数項 0.1(0~0.9AV)

その他の表示 ●測定範囲アンダー表示……F値表示部E.u

● " オーバースー表示 …… " E.o

●バツチリ一チエツク ……F値表示部b.c

電池の容量表示

使用電池 ●単三乾電池(1.5V)1本(JIS:LR6、SUM-3(R6))

標準付属品 ●光球、白色平板、光角度板(その他別売ペンクローコード)

大きさ・重さ ●142×64×28mm、約160g(電池含む)

この取扱説明書に記載の仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合があります。

アフターサービスについて

弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されており、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。

なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

●無料保証期間などについて

- ①無料保証期間はご購入日より1ヵ年間でございます。
- ②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
- ③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。
- ④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

●補修用性能部品の保有期間などについて

- ①補修用性能部品は5年間の目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能な場合もありますのでサービスセンターにお問合せください。
- ②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうちお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。
- ③修理可能期間内でも浸水冠、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われるものにつきましては修理不可能となる場合があります。

●修理ご依頼時における留意事項

- ①修理品につきましては、故障内容や、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的に申し出てください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご注意ください。
- ②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、①の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

●転居の場合の手続きについて

- ①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

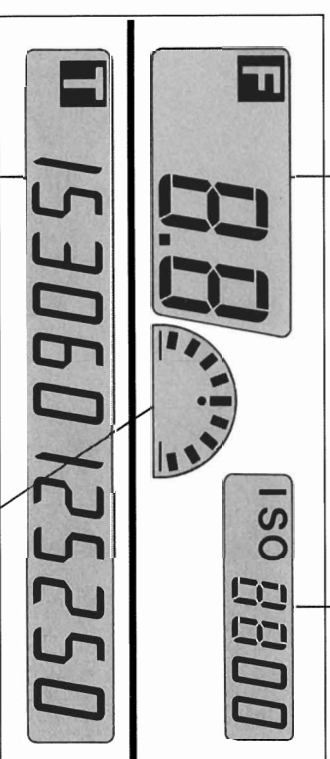
●お問合せ先について

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

液晶表示部

- ①測定F値の整数部が表示されます。
- ②電源ON・OFFキーを、ONしたときにb.c文字が表示されます。
(小数項表示部と連動します)

ISO(ファインム感度セツト)キーと▼(ダウン)キー、▲(アップ)キーに連動してファインム感度が可変表示されます。
(ISO3~8000)
電源ON・OFFキーを、OFFにした場合ISO64に戻ります。



- ▼(ダウン)キー、▲(アップ)キーに連動して設定タイムが表示されます。
(1/60~1/6000秒)
電源ON・OFFキーを、OFFにした場合601に戻ります。

- ①測定F値の小数項表示
(1目盛 $\frac{1}{60}$ AV単位で表示されます)
- ②電源ON・OFFキーを、ONしたときに電池の容量が表示されます。

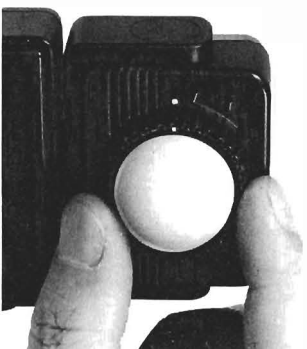
1. 光球

入射光式でボートレータや立体的な被写体の露出を測定するときに使用します。

【取付け方法】

光球と受光部の白点（着脱指標）を合わせます。つぎに光球を矢印方向に静かに回転させるをクリックで確実にセットされます。

●取りはずすときは、矢印とは逆の方向に回転させます。



【測定方法】

被写体の測定したい位置から、光球を正しくカメラの方向に向けて測定します。

2. 白色平板

入射光式で照明コントラスト、平面的な被写体の露出を測定するときに使用します。

【取付け方法】

取付け、取りはずしは光球の場合と同じです。

【測定方法】

被写体の測定したい位置から白色平板を光源に正しく向けて測定します。

ただし、平面的な被写体の露出を測定するときは、被写体の測定したい位置から白色平板をカメラの方向に向けて測定します。



お買い上げいただいたセコンニック・デジタルラジエール458は、多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

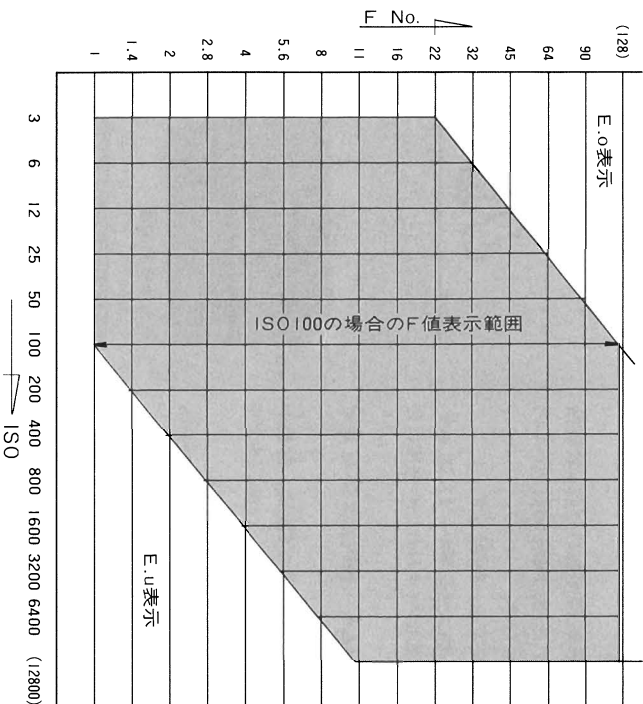
- a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
- b・極度の高温、多湿な場所には保管しないでください。
- c・光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つようにしてください。
- d・余分な電池の消もうを避けるため、使用時以外は、できるだけON・OFFスイッチをOFFにしてください。
- e・この露出計の使用温度範囲は、0℃～+40℃です。

万一故障がおきましたときには、最寄の営業所、またはサービス・センターにお持ちください。

お近くに、営業所またはサービス・センターがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキンに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

測定範囲

ISO感度のセレクトにより測定範囲 (F値表示) は、下図のようになります。



3. 光角度板

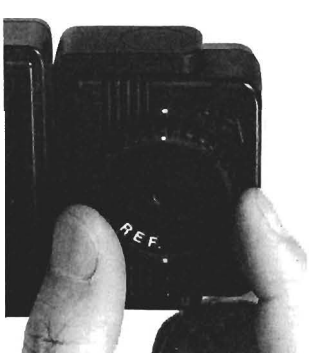
反射光式で被写体の反射光 (輝度) を測定するときに使用します。輝度域調整用として輝度の相対比 (被写体のコントラスト) を知るときに必要なほか、入射光式では測定困難な場合にも使用します。

〔取付け方法〕

取付け、取りはずしは光球の場合と同じです。

〔測定方法〕

被写体に光角度板を正しく向けて測定します。なお被写体の部分測定をしたいときは、できるだけ近づいて測定してください。



4. シンクコード (別売)

露出計とストロボを接続してフラッシュ光を測定するときに使用します。この長さ55mmのコードは、3つのプラグを持ち、露出計とストロボおよびカメラを同調させることができるので、撮影をするときにもコードを差し換える必要が全く大変便利です。また露出計側の接続端子は、ロック機構がついているので確実に接続することができます。なおコードをはずすときは、ロックを解除するリングの部分を持ち、手前に引いてください。

5. ビューファインダー (別売)

ビューファインダー (L-518共通・受光角10°) をご使用の場合は、あらかじめ使用するフィルム of ISO感度を4倍にセレクトしてご使用ください。

(例) ISO1000のフィルムを使用する場合
ISO100×4=ISO400
をセレクトして測定します。

測定準備

1. 電池を入れます。

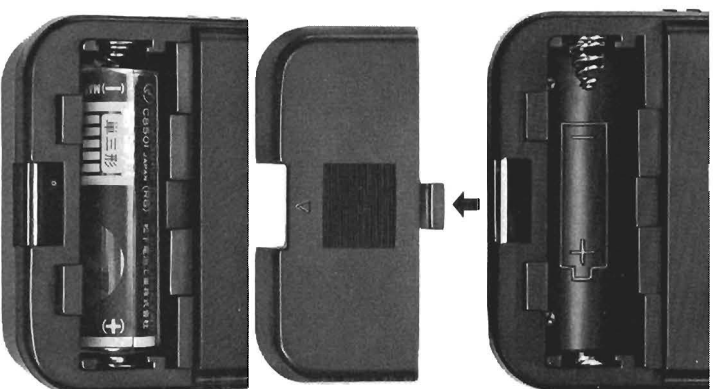
電池は、単三乾電池(1.5V)1本を使用します。なお、サンガン乾電池(SUM-3)で連続使用20時間以上(常温・連続使用状態)の測定ができます。

【電池の入れかた】

- ①電池ふたに指をかける押し込みから矢印の方向に引いてはずします。
- ②電池の⊕⊖の極性を確認し、電池ケース内の表示に合わせて⊖側を先に入れ指で押すようにして、正しく挿入します。
- ③電池ふたを本体に合わせて、スライドさせて取りつけます。

【注意】

- 電池を入れるときは、電池の⊕⊖の極性をまちがえないでください。
- 電池の⊕⊖の接点のよさをのぞいて入れてください。
- 電池の取り外しは、⊕側(二指先をかける⊖側)に押すようにして取り外してください。
- ※⊖側より外すは接片をいこめることがあります。
- 1週間以上使用しないときは、電池の漏液などによる内部回路不良を防ぐため、電池を取り出し、ケースのサポータントに保管してください。



コントラストの測定

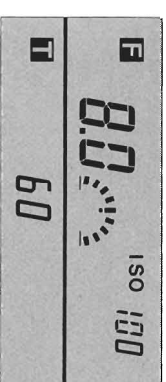
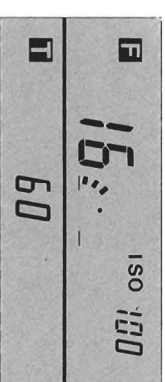
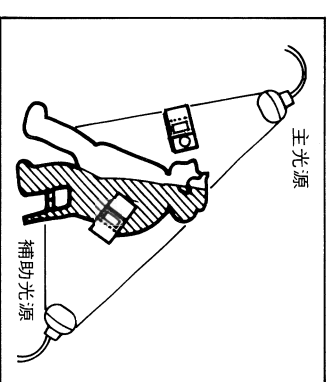
被写体位置で、主光源による明るさと、補助光源による明るさをそれぞれ測定し、照明光源のコントラスト比を調整します。

【測定の方法】

- ①白色平板と回転受光部の白点(着脱指標)を合わせ、白色平板を時計方向に回して取りつけます。
 - ②電源ON・OFFキーを押します。
 - ③ISOキーを押しながら、▲キーを押して使用レベルのISO感度に合わせます。
 - ④▼キーまたは▲キーを押してタムを設定します。
 - ⑤露出許を被写体位置で保持し、白色平板の中心を主光源の中心に正しく向けて測定します。
 - ⑥同様の操作で補助光源の露出を測定します。この場合、主光源からの影響を受けないように注意してください。
 - ⑦そのときの主光源と補助光源の絞り差がコントラスト比になります。
- (例) 右図のように1絞り半ある場合はコントラスト比は3:1となります。

【注意】

- 露出の決定は、光球をつけて入射光式で測定してください。
- ストロボ光の測定の場合はシンクロードをシンクローターミナルと接続して測定してください。

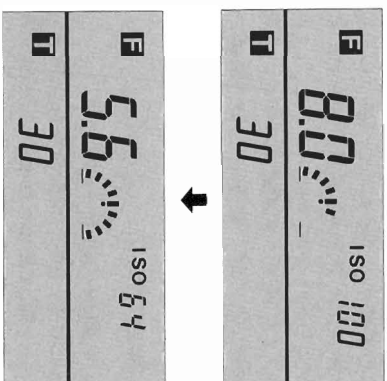


補助光源の測定値

絞り値の段差	コントラスト比
1	2 : 1
1½	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1
5	32 : 1

【ISO変換による測定後の演算について】

【例】測定後の表示が右上図のようとき、ISO数値を100から64に変換すると右下図のように絞り値が8.0 + %から5.6 + %に演算されます。



【注意】

- フラッシュ光の測定方法は、コーポイン測定のみです。
(コーポイン測定はできません)
- 測定後のタイムの演算はできません。
- 測光ボタンスイッチを押しすぎたとき液晶の表示が約0.5秒間消えますが故障ではありません。
- タイム設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることを確認してください。フラッシュバルブの場合の同調時間は1/60秒以下で測定してカメラのX接点で同調させてください。
- 大型ストロボ（閃光持続時間の長いストロボ）を使用して、フオーカリングレンズやタフカメラで同調させる場合は、光量不足になる場合があります。カメラのX接点の異なる同調時間を確認のうえ、ご使用ください。

2. 電池をチェックします。

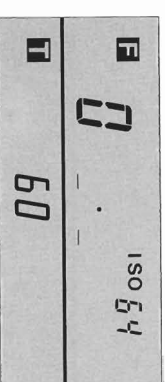
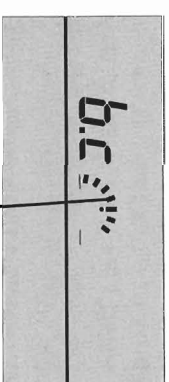
この露出計は、電池の電圧チェックを行います。

【チェックの方法】

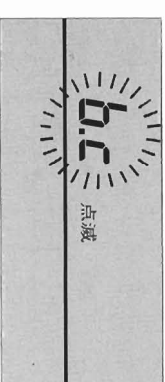
- ①電源ON・OFFキーを押している間は、b,cの表示と電池電圧がドットで表示され、離すと測定状態となります。

【注意】

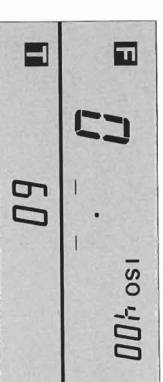
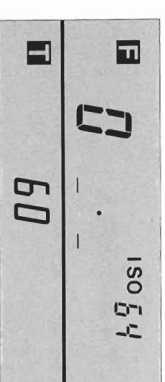
- 電池の電圧が不足しているとき、キーを押している間は、b,cのマークが点滅または表示が消え不足を知らせます。このときは、新しい電池に交換してください。
- 電池電圧が低下しかかっている電池では、一時的にb,cおよびドットが表示されますが、異常な表示をすることがあります。このようときは新しい電池と取り替えてください。



測定状態



電池不足状態



3. ISO感度の切換え

ISOキーを押したまま▼(ダウン)キーまたは▲(アップ)キーを押して、使用するフィルム of ISO感度をセットします。

【例】右の下图は上図よりISOキーを押したまま▲キーを8回押し、ISO64→400に変換されています。

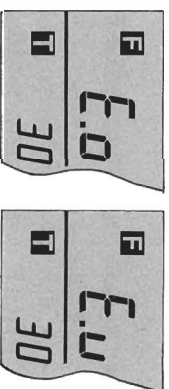
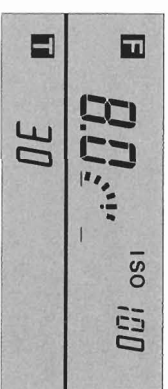
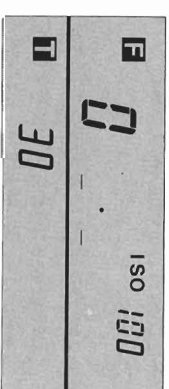
露出の測定

この露出計は、フラッシュ光と定常光の測定ができます。フラッシュ光測定の場合は、露出計とストロボをシンクコードで接続して測定します。[定常光の測定はシンクコードを接続しない状態で使用します。その他は全て同じです]

〔測定の方法〕

- ①電源ON・OFFキーを押します。
- ②ISOキーを押したまま、▼キーまたは▲キーを押して使用ダイヤルのISO感度に合わせます。
- ③▼または▲キーを押して使用するタイムを設定します。(1/60～1/500秒)
- ④露出計とストロボをシンクコードで接続します。[定常光の場合はこの項は必要ありません]
- ⑤測光ボタンスイッチを押すとストロボが発光して約0.5秒後に測定値が表示されます。再度測定するときは、測光ボタンスイッチを再度押してください。

- F(終り)値運動範囲は、F1.0～90 (90.9)までです。(ISO 100の場合)
- 測定範囲を外れた場合は、F値表示がE.o(オーバー)、E.u(アンダー)が表示されます。
- 測定後、約5分間は測定値が保持されますが、その後は省エネスイッチが自動的にOFFになります。



- ISOキーを押したまま▼キーまたは▲キーを1秒以上押し続けると、約0.5秒間隔で、両方のキーを押している間、連続で交換されます。
- ダイヤル感度は、ISO3～8000までセッティングできます。
- ISO (ASA) ・DINの比較は下記のとおりです。

ISO (ASA)	3	4	5	6	8	10	12	16	20	25	32	40	50	64	80	100 (125)	120	160
DIN	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23

	200	250	320	400	500	640	800	1000	1200	1600	2000	2500	3200	4000	5000	6400	8000
	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40

4. タイムの切換え

▼キーまたは▲キーを押して測定するタイムに合わせます。

(例) 右の上図のときに▲キーを1度押し、下の図のようになります。

●タイム変換できる数値は、

1/5、1/60、1/60、1/60、1/60の5段階です。

